Course number	U-LAS02 10003 LJ35				
Course title (and course title in English)	音楽芸術論Ｉ Theory of Musical Art I		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Part-time Lecturer,SHIMADA KUMI	
Group	Humanities and Social Sciences	Field(Classification)	Arts, Literature and Linguistics(Foundations)		
Language of instruction	Japanese	Old group	Group A	Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Year/semesters	2025・First semester
Days and periods	Mon.2	Target year	All students	Eligible students	For all majors

[Overview and purpose of the course]

「癒し」という観点から音楽史を捉える。音楽は有史以来、多くの文化において人びとの「癒し」として機能してきた。その際、音楽はどのような文脈で用いられ、概念化されてきたのか。その歴史的変遷を主に西洋思想のなかに探る。

[Course objectives]

音楽と癒しの関係について、時代ごとの特徴と歴史的背景を理解し、関連する基礎的な諸概念と音楽理論の知識を習得する。そのうえで、「音楽と癒し」というテーマについて、自身の音楽体験とのつながりを考え、論述する力を身につける。

[Course schedule and contents)]

「音楽と癒し」というテーマについて概説したのち、以下の項目について、それぞれ２～３回の講義を行う。（授業回数はフィードバックを含め全１５回とする）

１．西洋音楽について
２．古代における音楽と癒し
３．中世における音楽と癒し
４．ルネサンス期における音楽と癒し
５．バロック期における音楽と癒し
６．近現代における音楽と癒し

[Course requirements]

・初回にガイダンスを行うので、履修予定者は出席すること
・音楽芸術論II（後期）との連続した履修を推奨する

[Evaluation methods and policy]

・リアクションペーパー（４０％）、および期末レポート（６０％）
・１０回以上の出席を必須とする

[Textbooks]

授業内で適宜資料を配付する

Continue to 音楽芸術論Ｉ(2)↓↓↓

音楽芸術論Ⅰ(2)

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

配付資料と参考文献、および自身のノートを活用し、前回までの講義の流れを振り返っておくこと。入門的なものでかまわないので、音楽史の研究書をあらかじめ通読しておくことが望ましい。授業内で実際に音楽を聴くための時間は限られるため、各自でできるだけそれを補うことが望ましい。

[Other information (office hours, etc.)]